

令和2年度第1回 立川市文化振興推進委員会 会議録（要旨）

開催日時	令和2年11月10日（火曜日） 午後2時～4時
開催場所	たましん RISURU ホール（立川市市民会館）5階 第1会議室
次第	<p>1. 開会</p> <p>2. 報告</p> <p>①第4次文化振興計画の決定について</p> <p>②第3次文化振興計画5年間の評価について</p> <p>3. 議題</p> <p>たちかわ創造舎（旧多摩川小学校有効活用事業）の更新について（意見聴取）</p> <p>4. その他</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次文化振興計画 ・第3次文化振興計画5年間の振り返り ・旧多摩川小学校有効活用事業 事業者の更新について（意見聴取）（添付資料） ① 評価シート（平成27年8月～令和3年3月） ② 主な実施事業について ③ たちかわ創造舎 第二期事業概要（草案） ・平成31年度第4回立川文化振興推進委員会 会議録（要旨） +まとめ写真
出席者（敬称略）	<p>[委員]</p> <p>委員長 今井良朗、副委員長 吉成順、高木誠、田ヶ谷省三、玉川宗則、堀江憲一、宮田龍之介</p> <p>[たちかわ創造舎]</p> <p>米原晶子、陽茂弥</p> <p>[事務局]</p> <p>産業文化スポーツ部長 矢ノ口美穂、地域文化課長 比留間幸広、地域文化振興財団事務局長 加登義哉、地域文化課文化振興係長 小林政仁、地域文化課市史編さん係長 小川始、地域文化振興財団文化事業係長 足立香織、地域文化振興財団主査 小林誠二、地域文化課文化振興係主任 田中準</p>
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次文化振興計画の決定について意見交換を行った。 ・第3次文化振興計画5年の振り返りについて意見交換を行った。 ・旧多摩川小学校有効活用事業 事業者の更新について意見聴取を行った。 ・コロナ禍での文化芸術活動における意見交換を行った。
担当	産業文化スポーツ部地域文化課文化振興係 電話 042 - 506 - 0012

■会議内容（要旨）

1. 開会

- ・委員長の司会により開会、産業文化スポーツ部長より挨拶があった。
- ・事務局より、資料について確認があった。

2. 報告

- ・事務局より第4次文化振興計画の決定について説明があった。

（委員長）今回の計画の策定について、一言ずつご意見をいただきたい。

（A委員）2年間委員会に携わってきて、色々な視点があることがわかり勉強になった。委員会の意見が反映されたいい計画になったと思う。

（B委員）改めて出来上がった計画をみると、よくまとまっていて見やすくなったと思う。また第3次計画と比べると紙の質も良くなった。写真もきれいでとても見やすく出来上がったと思う。

（C委員）よくまとまったものができたと思う。改めてみると少しずつ色々なことが進んでいると感じる。立川の文化がどう発展していくか楽しみである。

（D委員）今回の計画を基に市に対しても委員会としてしっかり提言していけたらよいと思う。

（E委員）このような計画があり、活動をしているという事をもっと発信していくことも大事だと思う。

（副委員長）この計画が出来上がったからおしまいではなく、この計画をどのように実現して形にして外に出していくか、という事が大事である。

（委員長）第3次までの蓄積を基にした計画になった。今後はこの計画がどのように進められていくかにかかっている。

- ・事務局より第3次文化振興計画5年間の評価について説明があった。

（B委員）コロナ禍における市内のアーティストへの支援はどのように行っているか、そのようなデータが含まれているとよい。このような状況の中、市はどのような対応をしてきたかが市民にもわかるようにしてあるとよい。

また各項目で目標を掲げているが、例えば「ロビーコンサート・水曜コンサート学生団体出演数」は目標を下回った数字になっているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあると思う。市民オペラやいったい音楽まつりも中止になったりしているので、コロナ禍でどのような影響が出たのか、どこかでまとめておく必要があると思う。

2. 文化芸術の担い手の支援の成果指標の中で「財団が展開する子ども対象事業参加者数」が目標値の3,000人を大きく上回っているが、数字を見てみると、もともとの目標設定値が少し低かったのではないか。そのあたりも少しずつ検討する必要があるように思う。ただ、子どもを対象とした今までないような広がりが出てきているので、その点はとても良いことだと思

う。個人的に、市民が自分の街に愛着と誇りを持つことが大事だと思っているので、この街で育った子どもたちが愛着を持ってくれるようになればもっと良い街になると思う。どんどん良い街になってきているので、やれることをもっと進めていってほしいと思う。

(事務局) 新型コロナウイルス感染症に関する市が行っている支援の件で、市民会館の使用料について、従来はキャンセルした場合は使用料の2分の1の還付であったが、新型コロナウイルス感染症が原因でのキャンセルについては使用料を全額還付することになっている。また、市民会館ホールで映像配信ができるよう、インターネット環境の構築(有線とWi-Fi)も行っている。その他に、立川文化芸術のまちづくり協議会で行っている補助金事業では、新型コロナウイルス感染症対策経費として、従来は補助対象外経費であった消耗品等も感染症対策で使用するものについては対象経費として扱うようにしている。また、市民会館の定員が50%という規制があったので、市民団体が使用する場合、今年度に関しては従来の減免額からさらに50%減免するというように規則を改正した。

これらのことは市のホームページにも載せている。このようなことで市の文化芸術を支えていければと思っている。

(事務局) 「ロビーコンサート・水曜コンサート学生団体出演数」について、平成25年当初は国立音大の出演者と市民の出演者、半々で出演をお願いしていたが、近年市民活動が盛んになり、申込件数も多く、出演者のレベルが上がってきているので、市民の出演者の申し込みを多くとるようにしている。またアイムホールの活用を迫られているところもあり、国立音大には公演そのものに出演してもらい、財団でサポートするという、当初とは違った形で学生に活躍の場を提供するようになったという事で目標値に達しないという結果になっている。現在は小学校への吹奏楽のクリニックという事業に音大の学生に講師として行ってもらうなど、学生の活躍の場が多様化しながら充実していくという方向を図っている。

もう1点、アーティスト支援の関係で、コロナの影響で市民オペラが中止にはなったが、本番に向けての練習や調整等はおこなってもらっていたので、7~8割程度の出演料は出すようにした。また、練習のフォローをしてもらったピアノの伴奏者や指導してもらった先生等の方々にも支払いをしている。他にもコンクールの入賞者が行うリサイタルなど、コロナの影響で開催ができない事業もあったが、極力中止ではなく、延期という形をとるようにして、出演してもらえるよう対応している。

市民団体の方々は連取場所の確保が厳しくなってきており、そういった相談も受けている。感染症対策をどのように行うかなどのアドバイスをしながら、少しでも活躍の場が滞らないように支援ができるよう心掛けている。

(B委員) 今の説明を受けてよくわかった。その当たりの内容は資料を見ただけではみえてこない部分なので、追加しておいたほうが良い。

(委員長) 先ほど出ていた目標値の話は以前も出ていたかと思うが、目標値となっている基準についてもう一度説明してもらえないか。

(事務局) 資料に乗っている目標値は、第3次文化振興計画を策定した当時に立てたものであり、取り組みの成果も昨年度までに成果が出たものの評価なので、現在のwithコロナの状況が

書かれていないものになっている。また、目標も第3次計画を作るときに立てたものなので、実際に5年間取り組み終わってみると目標設定自体の甘辛を感じるようなものも今となっては出てきている。第3次計画の5年間で途中で目標の軌道修正をするということをやったが、今回の新型コロナウイルス感染症など、想定外の事態で様々な影響が出てくることがあるかもしれないので、第4次計画に関しては、場合によっては目標値の軌道修正や見直しなども委員の皆様にご意見をいただきながら、検討していくことが必要となってくるかもしれない。

(C委員) 若手や障害を持っている人などのプロを目指しているアーティストで、今回のコロナの影響で数か月仕事が飛んでしまい、生活がままならないという人が周りにいる。そういう画家や彫刻家などに対し、立川市としてはどのように支援等を考えているのか。

(事務局) 特に画家や彫刻家と限定したものではないが、そのあたりについては、第4次計画の中で、「学生・若者・障害者等の文化芸術活動への参加促進」「アーティスト活動の支援」という実施項目を挙げ、場の支援や人材育成などで支援したり、立川文化芸術のまちづくり協議会の補助金事業や発表の場の提供など、多角的な支援をしていければと思っている。

(D委員) 文化協会は市民会館のロビーの展示スペースで盆栽などの展示を行って、展示することで反響もあるようである。セキュリティ上の課題もあるが、年間スケジュールで空いている期間もあるのでそこを活用するのもよいかもしれない。

(委員長) 今話があったような横のつながりが必要になってくる。横のつながりを持ち、どのように助け合っていくか、そういったこともこのコロナ禍でより一層考えていかなければいけないという印象を持った。

個人的な感想だが、音楽関係者が本当に大変だったということをももの凄く実感した。演奏の場や練習場も含め大変な状況であると感じた。また、行政は頑張っているが、それを支える国の文化施策がいかに貧困かというのがそのまま出てきてしまっているように感じる。これからは横のつながり作りつつ、新たな環境づくりというのが第4次計画に入ってきていてもいいのではと思う。

(B委員) 音響の仕事をしている方など会場の状況を把握している人などがコロナの影響で仕事が無くなり、居なくなってしまうと、結果として良いコンサートも出来なくなってしまう。青山学院大学の先生はコロナのようなウイルスは今後もなくなると言っていた。冬あたりにイギリスでワクチンができるという話もあるが、状況はあまり変わらないのではないかとすればフリーで活躍しているようなアーティストや舞台芸術の方たちをみんなでも助けていくことが必要。サントリーホールでも世界に先駆けウィーンフィルを呼んで公演を行うようである。これも芸術家を救うための方策だと思う。こういうものを行政でも関係団体と相談しながら、立川の文化芸術を守るためにどのような手を打っていけばよいか、具体的な課題を出し合い進めていけば、ずいぶん変わるのではないかと、思う。そのような視点を持たなければならない。冬が終わればもう大丈夫、という感じで安心してはだめだと思う。

3. 議題

たちかわ創造舎(旧多摩川小学校有効活用事業)の更新について(意見聴取)

・事務局より資料を基にたちかわ創造舎（旧多摩川小学校有効活用事業）の更新について説明があった。

（B委員） 事業開始当初は演劇の公演などかなり行っていたようだが、最近アウトリーチ事業も行っているようで期待している。役者などを講師として呼び、自分を表現する手立てを学ばせる、というコミュニケーション能力の育成は、子供のうちから行うことが大事であるが、イギリスなどに比べ日本はまだまだその部分が進んでいないので、創造舎の活躍に期待したい。

創造舎も更新を望んでいて、市としても継続する方向でいるのであれば、もっと活躍の場を提供してもよいのではないか。例えばチーフディレクターの倉迫さんに RISURU ホールの舞台監督をやってもらい、市民団体と組んだりステージガーデンで活動することで、市民にとって良いものができるのではないか。優秀な人材がいて、その人たちがやりたいことがあるというのなら、それを大事にすることが文化芸術を地域に広めて発展させていくということにつながるのではないか。そういう支援のやり方もあると思う。個人的にはもっと色々なことをやってもらいたい。

（A委員） 5年間で色々な事業をやっていたと改めて感心した。フィルムコミッション事業について、どうしてもこちらから営業をかけづらい事業であると思うが、この5年間でどのような工夫をしてきたか、撮影隊のニーズにどう対応してきたかを教えて欲しい。

（たちかわ創造舎）フィルムコミッション事業については、スタート時は知り合い関係や以前から旧多摩川小学校を使用したことがあるところからもう一度使用したいというような案件で始まった。もともと豊島区でも廃校運営を行った経験もあり、その中でフィルムコミッション事業も行っていたので、ある程度収入の柱になると勝算をもって行った事業である。

この5年間で営業活動等はほぼやったことはなく、問合せがあってから精算するまで同じ担当が相手をするという、密接なコミュニケーションをとるやり方で、利用者に満足してもらい、結果としてリピーターとなるケースが多い。新規案件については、東京ロケーションボックスのような情報を掲載しているサイトを見て問い合わせが来るケースが多い。昭島市や多摩市のフィルムコミッションと相互連携して、自分たちが受けられなかった案件を他に回したり、逆に受け入れたりという事で利用してもらおうケースもある。

（A委員） 撮影の現場で一番場所を確保しづらいのが学校と病院である。立川近辺で通常では借りづらい施設と連携して事業を行うと、利用件数も倍増すると思う。今までは地方まで行って借りていた施設を立川で借りられるとなると需要も増えるだろうし、市の協力を得て、通常では借りられないような施設を利用できるようになると面白いと思う。

（たちかわ創造舎）ここで新たな事業者が入り立川ロケーションサービスができたので創造舎以外の撮影については立川のロケーションサービスに任せている部分もある。ロケーションサービスとは引き続き連携を取っていきたい。

4. その他

・事務局より、地域文化振興財団の中期経営計画策定について報告、立川市の市史編さんについて現状の報告があった。

(委員長) 現在のコロナ禍での「with コロナ」における文化芸術活動等に関して、皆様の現況や意見交換等をお願いしたい。

(E委員) この先どうなるかわからないが、オンラインの活用をしていくのが良いと思っている。ただ現状はハードルが高いものである。企業だと比較的移行しやすいが、そうではない場合すぐに移行というのは難しいと思っているので、それをどう解決していくかが課題である。ライブなど無観客で配信にするなど、できることから進めていくことが大事である。個人的には正しい知識、正しい予防をすればそこまでコロナは怖くないものと思っており、むしろ過敏に反応しすぎて問題無いものであっても出来なくなってしまう、ということが問題だと思っている。

(委員長) オンラインの活用が難しいと思っているのはなぜか。

(E委員) スマートフォンやYouTubeなどの動画配信を使いこなせるか、そのような会話をしたときに何ができるか認識できるかどうか、ここを埋めるのがすごく難しいと思っている。

(D委員) コロナの影響で演出方法も通常とは変わってきている。予定している公演があるが、今後どうなるか様子を見て決めるようである。

(C委員) 展示会やアートフェアが世界的に中止になっている。アート界全体にストップがかかってしまっているような状況なので、今後どうしていけばよいか様々なところで考え努力された事がコロナ禍の中で逆に収穫になったと思う。今まで見えなかったものが見えてきたというのがすごく大事だったと思う。この先どうなるかわからないが、自分なりにどう生きていくか考えた知恵の集積が今後役に立つと思っている。

また、情報を集められない人たちに以下に情報を伝えていくかというのが委員会の仕事なのかも、と感じている。

(B委員) 欧米の感染者数などと日本の数値を比べると、明らかに日本の方が数が少ない。これは衛生管理などの文化の違いからきているのではないかと思っている。そう考えると文化の力は大きいと感じる。また、そのような文化を大事にしていかななくてはいけないとつくづく感じている。

(A委員) 23区の方は多摩地域よりもコロナウイルスに対して危機感を持っていて、ここ最近青梅や檜原への移住者が殺到しているという現状もあり、多摩地区が都市部から非常に注目されてきている。色々な面で注目されているので、都市部に立川をアピールするには絶好の機会であると思う。また、動画配信についてもとても可能性のあるものだと感じていて、とある酒蔵でオンライン酒蔵ツアーを行ったところ、海外

からも参加者がいたようである。コロナに関しては日本だけでなく、世界的に価値観が変わっているので、立川から世界に向けて発信できるチャンスであると感じている。

（副委員長）今までと同じことをやろうとしても出来なくなっているという状況だが、例えばホールで音楽会をやるというのも200年前くらいに始まったことであり、その前からホールは無くても音楽はあるという状況であった。ホールで音楽を行うという事を続けようとするからできなくなるだけで、そもそも本来音楽とは何か、というところまで戻れば、道は開けてくるのではないかと思っている。この考えは以前から持っていて、例えば楽器を演奏している人が楽器が無くなったら何もできない、となってしまうような人を育てるのが音楽教育なのかと疑問を持っていた。今回のコロナにより従来通りのやり方はできなくなっているが、音楽や美術というのは無くなることがないので、それだけ大事なものだと思ってやっていくのがよいと思っている。

今後どんなことがあっても歌は歌えるし、絵も描けるといのは変わらない。そういうことを常に考えていくことがよいと思う。そうでないと、状況が変わった時に対処できなくなってしまう。という事を考えている。